

複数の型が検出された *Listeria monocytogenes* 集団感染事例 - 福岡市

保健科学課 古賀舞香・中野朝美・田上紗弥加・光安志織・松永典久・佐野由紀子

病原微生物検出情報 (IASR), 43, 195-196, 2022

福岡市内で、食品媒介が疑われる *Listeria monocytogenes* (LM) の感染事例が発生したため、その概要を報告した。本事例では、A 家族宅で A 家族 4 名 (a1, a2, a3, a4) 及び B 家族 4 名 (b1, b2, b3, b4) が会食し、うち 3 名 (a2, a3, b1) が翌日から翌々日に体調不良を呈した。a3 は医療機関にて LM が検出され、リステリア症と診断された。会食では、購入したそうざい 2 品、自宅調理品、生フルーツ、のり及びジュースを喫食していた。有症者便 2 検体 (a2, b1)、会食時の残品 2 検体 (そうざい①及びそうざい②) 及び会食で提供された食品の未開封品 3 検体 (そうざい②、のり及びジュース) について食中毒の原因菌の探索を行ったところ、有症者便 2 検体及び会食時の残品 2 検体から、血清型 1/2a 及び 1/2b の LM を検出した。一方、会食で提供された食品の未開封品 3 検体からは LM は検出されず、全検体において他の食中毒の原因菌も検出されなかった。当所で分離した LM 菌株と、医療機関で分離された LM 菌株について multilocus sequence typing (MLST) 及びパルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) を行ったところ、複数の遺伝子型の LM が検出された。症状と LM との最終的な因果関係は不明であったが、複合的に感染していた可能性が示唆された。また、そうざい①及びそうざい②は、加熱せずに喫食可能な ready-to-eat (RTE) のデリミートであった。RTE 食品の喫食による LM 感染リスクの程度は非常に高いとされている。今回、未開封の同一ロット品が入手できなかったため、購入時点における LM による汚染の有無は確認できなかったが、複数の型の LM を検出した貴重な事例であった。